

日商簿記 3 級 実力判定テスト (問題・答案用紙)

本資料は、日商簿記 3 級の実力判定テストになります。本試験と同じく、全 3 問構成です。

問題を解いていただき、今後の学習方針の決定にご参考いただきますよう、お願いいたします。

- ・制限時間は 60 分です。
- ・解き終わりましたら、模範解答にて自己採点をしてください。

第1問 (45点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、答案用紙の（ ）に記号で解答すること。

1. 得意先愛知㈱より商品¥865,000の注文を受け、手付金として¥150,000を現金で受け取った。
ア 現金 イ 売掛金 ウ 前払金 エ 仮受金 オ 前受金 カ 売上
2. 期中に現金の実際有高と帳簿残高を照合したところ、実際有高が¥3,200不足していることが判明した。
ア 雑益 イ 仮受金 ウ 現金 エ 雑損 オ 現金過不足 カ 仮払金
3. 売掛金¥80,000について、承諾を得て、電子記録債権の発生記録を行った。
ア 売掛金 イ 電子記録債権 ウ 買掛金 エ 電子記録債務 オ 売上 カ 仕入
4. 取締役会の決議により、未発行株式のうち100株を1株の払込金額¥170,000で発行し、全株式について払い込みを受け、払込金額を当座預金とした。
ア 当座預金 イ 未払配当金 ウ 資本金 エ 利益準備金 オ 繰越利益剰余金 カ 損益
5. 買掛金支払いのために振り出していた約束手形¥400,000の支払期日が到来し、当座預金口座より引き落とされた旨、取引銀行より連絡を受けた。
ア 支払手形 イ 現金 ウ 仕入 エ 買掛金 オ 当座預金 カ 受取手形
6. 販売用の事務機を¥350,000で購入し、代金は月末に支払うこととした。当社は事務機販売業を営んでいる。
ア 現金 イ 当座預金 ウ 備品 エ 買掛金 オ 未払金 カ 仕入
7. 法人税の中間申告を行い、¥360,000の小切手を振り出して支払った。
ア 現金 イ 当座預金 ウ 仮払法人税等 エ 未払法人税等 オ 資本金 カ 損益
8. 決算整理後の、収益の諸勘定の残高¥7,520,000は損益勘定の貸方に、費用の諸勘定の残高（法人税等の計上額を含む）¥5,930,000は損益勘定の借方に振り替え済みである。損益勘定の貸借差額を当期純損益として繰越利益剰余金勘定に振り替える。
ア 資本金 イ 利益準備金 ウ 繰越利益剰余金 エ 売上 オ 仕入 カ 損益
9. 当期に発生した売掛金¥180,000が回収不能となった。なお、貸倒引当金残高が¥60,000ある。
ア 売掛金 イ 買掛金 ウ 貸倒引当金 エ 償却債権取立益 オ 貸倒損失 カ 貸倒引当金繰入
10. 本日、当社役員に対する貸付金¥1,000,000の満期日になり、元利合計が普通預金口座に振り込まれた。貸付利率は年2%、貸付期間は9ヵ月であり、利息は月割計算する。
ア 現金 イ 当座預金 ウ 普通預金 エ 役員貸付金 オ 受取利息 カ 支払利息

	借 方		貸 方	
	記 号	金 額	記 号	金 額
1	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
2	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
3	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
4	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
5	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
6	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
7	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
8	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
9	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
10	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	

11. 本日、倉庫として利用していた建物の賃借契約期間が終了し、契約時に支払っていた敷金¥360,000 から原状回復するための当社負担額¥90,000 を差し引いた残額が、当座預金口座に振り込まれた。

ア 現金 イ 当座預金 ウ 建物 エ 差入保証金 オ 固定資産売却益 カ 修繕費

12. 社会保険料¥664,000 が普通預金口座から引き落とされた旨の連絡を受けた。なお、¥332,000 は従業員負担分（以前、給料を支払ったときに預かった分）であり、残りが会社負担分である。

ア 現金 イ 普通預金 ウ 当座預金 エ 社会保険料預り金 オ 法定福利費 カ 給料

13. 期首に取得原価¥250,000、減価償却累計額¥150,000 の備品を¥110,000 で売却し、代金のうち¥50,000 は先方振り出しの小切手で受け取り、残りは月末に受け取ることにした。なお、減価償却の記帳は間接法による。

ア 現金 イ 未収入金 ウ 備品 エ 減価償却累計額 オ 固定資産売却益 カ 固定資産売却損

14. 株主総会において、繰越利益剰余金勘定の前期繰越額¥410,000 を次のように配当・処分することが決定した。なお、残額は次の剰余金の処分まで繰り越すことにした。

株主に対する配当金：¥300,000 利益準備金：¥30,000

ア 現金 イ 繰越商品 ウ 未払配当金 エ 繰越利益剰余金 オ 利益準備金 カ 損益

15. 出張から帰社した社員より以下の出張旅費等精算書が提出され、添付されていた領収書との確認を行った上で、概算払いしていた¥100,000 との差額を現金で支払った。

出張旅費等精算書			
支 払 先	摘 要	領収書	金 額
JR××高山駅	乗車券代	☒	¥ 52,640
岐阜観光(株)	タクシー代	☒	¥ 30,860
ビジネスイン高山	宿泊代	☒	¥ 17,600
合 計			¥ 101,100

ア 現金 イ 前払金 ウ 仮払金 エ 立替金 オ 旅費交通費 カ 雑損

	借 方		貸 方	
	記 号	金 額	記 号	金 額
11	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
12	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
13	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
14	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
15	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	

第2問 (20点)

(1)

東京(株)は、主要簿以外に以下の答案用紙に記載してある補助簿を用いている。次に示す1.～5.の取引が、どの補助簿に記入されるか、該当する補助簿の欄に○印を記入しなさい。なお、該当しない補助簿の欄には何も記入しないこと。

1. 得意先より注文を受けていた商品を、本日発送した。代金は、注文時に受け取っていた手付金を差し引き、残りの半額を先方振出の約束手形で受け取り、もう半額は月末に受け取ることにした。
2. 仕入先に注文していた商品が、本日納品された。代金は、注文時に支払っていた手付金を差し引き、残りの半額を約束手形の振り出しにより支払い、もう半額は月末に支払うことにした。なお、引取費は小切手を振り出して支払った。
3. 買掛金の支払いとして、仕入先宛ての約束手形を振り出し、郵便書留にて郵送した。なお、当社負担の郵送料は現金で支払った。
4. 売掛金の回収として、得意先振り出しの小切手を受け取った。
5. 書類等保管用の大型キャビネットを購入し、配送料及び据付費を合わせて、小切手を振り出して支払った。

[illegible]

(2)

当社は×1年4月1日に設立し、当期で第3期をむかえている。下記の第1期から第3期の資料にもとづき、第3期の繰越利益剰余金勘定の空欄①～⑤に入る適当な勘定科目、語句、金額を答えなさい。ただし、勘定科目・語句については、下記の語群より適当と思われるものを選び記号で解答すること。

ア. 現金 イ. 普通預金 ウ. 未払金 エ. 資本金 オ. 利益準備金 カ. 損益
キ. 前期繰越 ク. 次期繰越

〈資 料〉

第1期（×1年4月1日～×2年3月31日：前々期）

- (a) 決算(3月31日)において、当期純利益¥1,240,000を計上した。
(b) 第1期には配当は行っていない。

第2期（×2年4月1日～×3年3月31日：前期）

- (c) 6月26日に開催された株主総会において、繰越利益剰余金残高から次のように処分することが決議された。
- ・株主配当金 ¥400,000
 - ・配当に伴う利益準備金の積立て ¥40,000
- (d) 6月29日に、株主配当金¥400,000を普通預金口座から支払った。
(e) 決算(3月31日)において、当期純利益¥1,680,000を計上した。

第3期（×3年4月1日～×4年3月31日：当期）

- (f) 6月24日に開催された株主総会において、繰越利益剰余金残高から次のように処分することが決議された。
- ・株主配当金 ¥500,000
 - ・配当に伴う利益準備金の積立て ¥50,000
- (g) 6月27日に、株主配当金¥500,000を普通預金口座から支払った。
(h) 決算(3月31日)において、当期純利益¥2,150,000を計上した。

繰越利益剰余金				
×3/6/24	未払配当金	(①)	×3/4/1	前 期 繰 越 (②)
×3/6/24	(③)	()	×4/3/31	(④) ()
×4/3/31	()	(⑤)		
		()		()

①	②	③	④	⑤

第3問 (35点)

次の【決算整理前残高試算表】と【決算整理事項等】にもとづいて、貸借対照表および損益計算書を完成しなさい。なお、会計期間は×3年4月1日から×4年3月31日までの1年間である。

【決算整理前残高試算表】

決算整理前残高試算表		
×4年3月31日		
借 方	勘 定 科 目	貸 方
2,127,600	現 金	
2,308,200	当 座 預 金	
1,040,000	受 取 手 形	
1,472,000	売 掛 金	
	貸 倒 引 当 金	6,000
670,000	繰 越 商 品	
4,800,000	備 品	
	減 価 償 却 累 計 額	1,600,000
	買 掛 金	1,062,400
	借 入 金	1,000,000
	資 本 金	6,000,000
	利 益 準 備 金	900,000
	繰 越 利 益 剰 余 金	73,600
	売 上	15,542,000
	受 取 手 数 料	709,400
6,756,000	仕 入	
3,257,000	給 料	
582,600	通 信 費	
508,800	旅 費 交 通 費	
3,326,000	支 払 家 賃	
26,000	租 税 公 課	
19,200	保 険 料	
26,893,400		26,893,400

【決算整理事項等】

- 郵便切手¥10,000 および収入印紙¥3,600 の期末未使用分があり、貯蔵品勘定に振り替える。なお、郵便切手および収入印紙は、購入時にそれぞれ通信費勘定、租税公課勘定で処理している。
- 現金の実際有高は¥2,125,200 である。なお、過不足の原因は不明であるため、適切な処理を行う。
- 当座預金口座に売掛金の振込み¥112,000 があったが、この取引の記帳がまだ行われていなかった。
- 売上債権期末残高に対して2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- 期末商品棚卸高は¥738,000 である。
- 備品について定額法（残存価額ゼロ、耐用年数6年）で減価償却を行う。
- 保険料は当期9月1日に向こう1年分を支払ったものである。
- 受取手数料のうち¥106,000 は次期分（前受分）である。
- 借入金 は 当期1月1日に年利率6%（期間1年）で借り入れたもので、利息は元金とともに返済時に支払うことになっている。利息の計算は月割りによる。
- 当期の利益に対する法人税、住民税及び事業税を¥360,000 計上する。

貸 借 対 照 表

×4 年 3 月 31 日

(単位 : 円)

資 産	金 額	負債及び純資産	金 額
現 金	()	買 掛 金	1,062,400
当 座 預 金	()	借 入 金	1,000,000
受 取 手 形	()	未払法人税等	()
貸倒引当金	(△) ()	前 受 収 益	()
売 掛 金	()	()	()
貸倒引当金	(△) ()	資 本 金	6,000,000
商 品	()	利 益 準 備 金	900,000
貯 蔵 品	()	繰越利益剰余金	()
前 払 費 用	()		
備 品	4,800,000		
減価償却累計額	(△) ()		
	()		()

損 益 計 算 書

×3 年 4 月 1 日 ~ ×4 年 3 月 31 日

(単位 : 円)

費 用	金 額	収 益	金 額
()	()	()	()
給 料	3,257,000	受 取 手 数 料	()
通 信 費	()		
旅 費 交 通 費	508,800		
支 払 家 賃	3,326,000		
租 税 公 課	()		
保 險 料	()		
貸倒引当金繰入	()		
減 価 償 却 費	()		
支 払 利 息	()		
雑 損	()		
法人税、住民税及び事業税	()		
()	()		
	()		()